

九州大学寄附講座・寄附研究部門一覧

令和4年4月1日現在

部局名	種別	講座・研究部門名	設置年月	現在の設置期間			寄附総額(千円)	寄附者	設置目的	教員	備考
				開始年月日	～ 終了年月日	年数					
医学研究院	寄附講座	人工関節生体材料学講座	平成23年2月	令和3年2月1日	～ 令和6年1月31日	3年	72,000	京セラ株式会社	人工関節に関する学生教育、臨床的評価および次世代に向けた研究開発を行う。近年、人工股関節への適応例は増加の一途をたどっており、関節疾患治療の中心的な役割を占めるに至った。本講座では人工関節に関する教育、および人工股関節をバイオメカニクス及びマテリアルの観点から解析・検証し、革新的な次世代人工関節を開発する事を目的とする。	寄附講座教員 (准教授) 本村 悟朗 寄附講座教員 (助教) 島田 英二郎	平成27年2月更新 平成30年2月更新 令和3年2月更新
システム情報科学研究院	寄附講座	味覚センサ講座	令和3年4月	令和3年4月1日	～ 令和6年3月31日	3年	45,000	株式会社味香り戦略研究所 株式会社インテリジェント センサーテクノロジー	本講座は、グローバル化したIT社会を背景にナノテクノロジー、バイオロジー、センサ技術、AI(人工知能)、感性科学を融合することで、世界初・日本発の味覚センサの研究開発をさらに強化すると同時に、その成果を学生および社会に普及させるための教育と研究の充実を図ることを目的として、システム情報科学研究院・情報エレクトロニクス部門に設置する。	寄附講座教員 (准教授) 矢田部 壘	
工学研究院	寄附講座	船舶海洋人材育成講座	平成29年12月	平成29年12月1日	～ 令和4年11月30日	5年	105,000	株式会社大島造船所	我が国における船舶・海洋教育の将来への継承化と発展のための人材育成を目的とした教育研究の進展及び充実に資することを目的とする。	寄附講座教員 (教授) 木村 元	
医学研究院	寄附講座	放射線医療情報・ネットワーク講座	平成26年4月	令和4年4月1日	～ 令和6年3月31日	2年	40,000	富士フイルム株式会社 富士フイルムメディカル 株式会社	横溢する画像情報の統合、融合、処理方法の開発、画像医療(画像診断、放射線治療)への活用、さらにはこの情報をネットワーク医療として活用するための新しい研究分野として、本講座を開設する。	寄附講座教員 (助教) 山下 孝二 松本 圭司 部局教員 (教授) 石神 康生	平成29年4月更新 令和2年4月更新 令和4年4月更新
医学研究院	寄附講座	連携病態修復内科学講座	令和2年4月	令和4年4月1日	～ 令和5年3月31日	1年	20,000	医療法人 相生会	総合内科学を基礎とした大学病院-地域病院の連携の推進。 ・連携医療機関で共通レジメンによる外来におけるがん化学療法や膠原病免疫治療を実施 ・術前、術後化学療法や進行・再発がんに対する化学療法を対象とした地域連携の推進	寄附講座教員 (助教) 王 宇清(WANG YUQING) 部局教員 (教授) 赤司 浩一	

部局名	種別	講座・研究部門名	設置年月	現在の設置期間			寄附総額(千円)	寄附者	設置目的	教員	備考	
				開始年月日	～	終了年月日						年数
医学研究院	寄附講座	包括的腎不全治療学講座	平成18年5月	令和2年4月1日	～	令和5年3月31日	3年	60,000	バクスター株式会社	包括的な腎不全治療を可能にする体制を構築し、安全で患者満足度の高い多様な腎不全治療の選択肢を提供することで地域医療の向上に貢献することを目的とする。	寄附講座教員 (准教授) 鳥巢 久美子	平成23年5月更新 平成25年4月更新 平成26年4月更新 平成27年4月更新 平成28年4月更新 平成29年4月更新 令和2年4月更新
薬学研究院	寄附講座	革新的バイオ医薬創成学講座	令和2年4月	令和2年4月1日	～	令和5年3月31日	3年	60,000	EPSホールディングス株式会社	国民の健康と福祉の向上に貢献するため、日本国民の主要死因である循環器疾患・悪性疾患をターゲットとして、革新的な次世代細胞・遺伝子医薬品候補を開発する。さらにこれらの最先端医療・医薬の患者への提供を速やかに実現するために、基礎研究に留まらず臨床試験を強力に進めるトランスレーショナルリサーチ推進機関としての役割を担い、中期的に先進的なバイオ医薬研究開発センターを目指す。	寄附講座教員 (教授) 米満 吉和 寄附講座教員 (准教授) 原田 結	
医学研究院	寄附講座	重症心肺不全講座	平成29年1月	令和2年1月1日	～	令和4年12月31日	3年	72,000	アボットメディカルジャパン 合同会社 日本メトロニック株式会 社 ニプロ株式会社	重症心肺不全に対する集学的治療のさらなる発展のため、救急からVAD までをシームレスに治療に関わるセンター化、薬物療法およびペースメーカーやCRT-D 等を用いた心不全治療とVAD を用いた重症心不全治療の包括化、植込型左心VAD(iLVAD)管理体制の充実、DT 時代に備えた準備、小児心不全治療体制の確立を目的とする。	寄附講座教員 (准教授) 田ノ上 禎久 寄附講座教員 (助教) 藤野 剛雄	令和2年1月更新
医学研究院	寄附講座	加齢病態修復学講座	平成28年12月	令和2年12月1日	～	令和6年11月30日	4年	120,000	株式会社FBR(Fujino brain Research)	内科学の発展のため、特に加齢と炎症に伴う恒常性の変化を、血液、腫瘍、神経分野において研究し、正常から異常への変化を分子レベルで明らかにし、その結果を新規医療技術開発に応用する。さらに、病態修復内科学講座の関連分野における大学院教育に貢献することを目的とする。	寄附講座教員 (准教授) 本庄 雅則 寄附講座教員 (助教) 稗田 道成	令和2年12月更新

部局名	種別	講座・研究部門名	設置年月	現在の設置期間			寄附総額(千円)	寄附者	設置目的	教員	備考
				開始年月日	～ 終了年月日	年数					
医学研究院	寄附講座	応用病態修復学講座	平成30年10月	令和3年10月1日	～ 令和6年9月30日	3年	120,000	社会医療法人池友会	内科学の発展のため、血液、腫瘍、循環器、免疫学分野を統合的に研究することにより、新規医療開発に貢献する。	部局教員 (教授) 赤司 浩一 寄附講座教員 (助教) 野上 順平	
医学研究院	寄附講座	眼病態イメージング講座	平成28年7月	令和元年7月1日	～ 令和4年6月30日	3年	60,000	株式会社ニデック	眼疾患に関する新規治療の開発とその成果を可視化する技術を研究するため。	寄附講座教員 (准教授) 八幡 信代 寄附講座教員 (講師) 秋山 雅人	令和元年7月更新
農学研究院	寄附講座	機能水・機能性食品・エネルギー講座	平成27年10月	令和2年10月1日	～ 令和5年3月31日	2.5年	64,500	第一産業株式会社 株式会社日田天領水 株式会社野口総合研究所	機能性食品や機能水には種々の疾病改善や予防効果があり、その実証及び分子レベルでの作用機序の解明を目指すことにより医療、農業、工業などの産業だけでなく様々な応用分野における進展を図り、広く社会に貢献することを主な目的として設置する。	寄附講座教員 (准教授) 富川 武記	令和2年10月更新
医学研究院	寄附講座	分子イメージング・診断学講座	平成31年4月	令和4年4月1日	～ 令和7年3月31日	3年	105,000	ゲルベ・ジャパン株式会社 株式会社 フィリップス・ジャパン	先進的画像診断機器を活用し、分子レベルの生体機能情報などの情報を取り出し、それらの情報を画像化、又は融合させることにより、より精度の高い診断方法の検討を行うとともに、治療方法の選択、予後予測などへ貢献できる新たな知見を得ることを目的とする。	寄附講座教員 (准教授) 梶尾 理 (助教) 石松 慶祐	令和4年4月更新
医学研究院	寄附講座	周産期・小児医療学講座	平成22年4月	令和4年4月1日	～ 令和7年3月31日	3年	180,000	福岡県	地域の分娩体制が脆弱である田川保健医療圏を含めた筑豊地区における周産期医療体制のあり方および整備方針に関する調査・研究を実施し、筑豊地域の周産期医療体制の整備を図る。また不足感の高い産科・産婦人科および小児科の医師の技術向上に繋がる研修プログラムを開発することにより、産科・産婦人科および小児科を志す医師の支援に資する。	寄附講座教員 (准教授) 浅野間 和夫 古賀 友紀 (講師) 石村 匡崇 (助教) 小川 昌宣	平成26年4月更新 平成28年4月更新 平成31年4月更新 令和4年4月更新
歯学研究院	寄附講座	歯科先端医療評価・開発学講座	平成31年4月	令和3年4月1日	～ 令和5年3月31日	2年	40,000	株式会社ジーシー	骨補填材の骨芽細胞および破骨細胞の活性評価を含めたりモデリングの基礎的研究の実施。	寄附講座教員 (准教授) 熱田 生	令和3年4月更新

部局名	種別	講座・研究部門名	設置年月	現在の設置期間			寄附総額(千円)	寄附者	設置目的	教員	備考
				開始年月日	～ 終了年月日	年数					
医学研究院	寄附講座	連携総合診療内科学講座	令和元年10月	令和元年10月1日	～ 令和4年9月30日	3年	100,000	原 寛	本講座では総合診療領域の新しい研究として、加齢という現象を各臓器の遺伝子変異の蓄積という視点において定量化する。心臓血管病・感染症・腫瘍・膠原病分野等を中心に据えた総合内科学教育を基礎として、Clonal hematopoiesis indeterminate potential(CHIP)などの蓄積する遺伝子変異解析を含めた高齢化に関連する病態の研究を行う。さらに研究マインドを持った病院総合診療医として臓器横断的な診断・治療を行うための総合診療医学教育を行う。	寄附講座教員 (准教授) 池崎 裕昭 寄附講座教員 (助教) 林 武生	
医学研究院	寄附講座	関節炎症・免疫病態学講座	令和元年11月	令和元年11月1日	～ 令和4年10月31日	3年	40,000	医療法人 近藤リウマチ・整形外科クリニック	各種関節炎疾患に対する新規治療法の開発、既存治療法の有効性、安全性向上を目標とした、関節炎免疫病態の基礎的、臨床的研究活動を通じて、次世代を担うリウマチ学/臨床免疫学研究者を育成する。	寄附講座教員 (准教授) 山田 久方	
医学研究院	寄附講座	消化器代謝学講座	令和元年12月	令和元年12月1日	～ 令和4年11月30日	3年	54,000	小野薬品工業株式会社 ミヤリサン製薬株式会社 株式会社三和化学研究所 株式会社大塚製薬工場 富士フィルムメディカル株式会社 テルモ株式会社 株式会社ファンケル 株式会社大賀薬局	消化器学と代謝学の境界領域において最先端の研究と診療に積極的に取り組むことにより、「消化器代謝学」ともいえる新しい研究領域を創成し、若手研究者・医師の育成と基礎研究の成果の速やかな臨床応用を目指す。	寄附講座教員 (准教授) 伊原 栄吉	
医学研究院 工学研究院	寄附講座	医工連携・健康長寿学講座	令和2年4月	令和2年4月1日	～ 令和5年3月31日	3年間	123,000	原 寛	医学と工学が協力し、生体材料分野など最先端の医学と工学による最新のテクノロジーが融合することにより、より効率的で利便性が高い技術を用いて快適で健康な生活を可能な限り長く過ごすことを可能とする研究を推進するための支援を行う。これら研究分野の融合は、「治療する医療から健康を維持し続ける医療」への変化をもたらす「未知領域あるいはフレイル領域を対象とするヘルスケアを支える新しいテクノロジーに対するニーズの高まり」にも対応することを可能とする。	寄附講座教員 (准教授) 濱井 敏 寄附講座教員 (助教) 古田 芳彦 部局教員 (教授) 山本 元司 寄附講座教員 (助教) 本田 功輝	

部局名	種別	講座・研究部門名	設置年月	現在の設置期間			寄附総額(千円)	寄附者	設置目的	教員	備考	
				開始年月日	～	終了年月日						年数
応用力学研究所	寄附研究部門	数値流体力学研究部門	令和2年4月	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日	2年	14,000	株式会社 新来島どつく	極めて高い並列性能を有する次世代CFDソルバーの開発、船舶海洋工学分野での水波と浮体の強非線形相互作用問題及び乱流拡散問題への大規模数値シミュレーションに関する研究を行う。	部局教員 (教授) 胡 長洪 寄附研究部門教員 (助教) カムラ モハメド・ムスタファア・ザキ・アハメド	令和4年4月更新
医学研究院	寄附講座	大動脈先進治療学講座	令和2年4月	令和2年5月1日	～	令和5年4月30日	3年	60,000	日本メトロニック株式会社、日本ライフライン株式会社	大動脈外科治療法の更なる発展および成績向上に伴う社会貢献を目的に、救急を含めた外来から手術および周術期管理、手術後の定期的経過観察までを継続的に関わるセンター化、手術においては人工血管置換術とステントグラフト治療を両輪とし、さらに新たな治療法を開発、普及に向けての教育体制確立を目的とする。	寄附講座教員 (准教授) 大石 恭久	
農学研究院	寄附講座	食品免疫機能分析学講座	令和3年4月	令和3年4月1日	～	令和8年3月31日	5年	60,500	株式会社ヴェントゥーノ 特定非営利活動法人 NPOフコイダン研究所	本寄附講座は、食を通じた免疫の維持・改善方策の創出を主眼として、成分分析技術の開発と利用、生理機能研究の遂行および取得した学術的知見の開示に取り組み、食品分析および食機能科学研究の発展と国民の健康生活の維持・向上に貢献することを目的として設置する。	寄附講座教員 (准教授) 宮崎 義之	
医学研究院	寄附講座	視機能再生講座	令和3年4月	令和3年4月1日	～	令和6年3月31日	3年	30,000	千寿製薬株式会社	緑内障・黄斑変性といった現在根本的な治療法がない疾患に対して、「再生医療のエッセンスを交えた治療」を開発すること、また疫学的手法を用いて高齢化の進行する日本における失明原因疾患の動向を調査し、その上で病初期での治療介入を目指すことを目的として本講座を設置する。	寄附講座教員 (助教) 上田 瑛美 伊東 崇子 部局教員 (教授) 園田 康平	

部局名	種別	講座・研究部門名	設置年月	現在の設置期間			寄附総額(千円)	寄附者	設置目的	教員	備考	
				開始年月日	～	終了年月日						年数
医学研究院	寄附講座	循環器病免疫制御学講座	令和3年4月	令和3年4月1日	～	令和5年3月31日	2年	18,000	株式会社メディネット	九州大学大学院医学研究院循環器内科学分野は、慢性心不全の病態における免疫細胞の作用メカニズムを活用した慢性心不全治療についての研究を行っており、当該研究を推進するために、慢性心不全の病態と免疫細胞の関係に関する学術的な解明を行うことを目的として本講座を設置する。	寄附講座教員 (助教) 池田 昌隆 部局教員 筒井 裕之	
医学研究院	寄附講座	神経画像解析学講座	令和3年5月	令和3年5月1日	～	令和5年4月30日	2年	24,000	鮫島病院 医療法人社団うら梅の郷会 朝倉記念病院 医療法人緑心会 福岡保養院 医療法人社団豊永会 飯塚記念病院 医療法人清陵会 南が丘病院 医療法人至誠会 帆秋病院	精神疾患の病態を解明することを目的として、ヒトの頭部MRI、脳波、および脳磁図などを用いた脳画像解析によって精神活動を可視化する研究を行うために本講座を設置する。	寄附講座教員 (教授) 鬼塚 俊明	
比較社会文化研究院	寄附講座	ワールドスキャン地理情報解析講座	令和3年5月	令和3年5月1日	～	令和6年3月31日	2年11ヶ月	46,000	株式会社ワールドスキャンプロジェクト	高度な可視化技術は、地理的事象を記載し研究する上で極めて重要である。本講座はマルチビーム測深やフォトグラメリー技術などを用いて、浅海底地形など地球上の地形や景観、文化遺産などの三次元計測および可視化技術を進化させ、教育や産業に資することができるデジタルアーカイブ整備のための研究開発を行うことを目的とする。	寄附講座教員 (准教授) 三納 正美	
都市研究センター	寄附研究部門	ウェルビーイング研究部門	令和3年11月	令和3年11月1日	～	令和6年3月31日	2年5ヶ月	145,500	一般財団法人雲孫財団	「Intergenerational well-being(世代をまたがる幸福/充実)」について、1)研究、2)国内および国際的なネットワーク構築を行うことで、本学がWell-being分野における先導的学術拠点として地位確立することを目的とする。	寄附研究部門教員 (助教) 齋 善彬 部局教員 (教授) 馬奈木 俊介	
理学研究院	寄附講座	地震火山長期予測・防災講座	令和4年4月	令和4年4月1日	～	令和8年3月31日	4年	60,000	西日本技術開発株式会社	地震火山活動の長期予測研究とその成果の社会への還元は、自治体や企業などの地域社会の防災計画や事業継続計画にとって有用であることから、地震火山噴火のポテンシャル評価とアウトリーチ活動を目的として本講座を設置する。	寄附講座教員 (教授) 松島 健	

部局名	種別	講座・研究部門名	設置年月	現在の設置期間			寄附総額(千円)	寄附者	設置目的	教員	備考	
				開始年月日	～	終了年月日						年数
工学研究院 システム情報科学研究所	寄附講座	資源循環IoTシステム講座	令和4年4月	令和4年4月1日	～	令和7年3月31日	3年	100,000	日立造船株式会社	<p>廃棄物マネジメントと深く関わっている地球温暖化、二酸化炭素排出抑制、海洋汚染、資源枯渇等は、人類が共通に抱えている喫緊の課題である。</p> <p>廃棄物マネジメントは、原材料の採取、製品の製造、消費といった動脈経済の物質フローと、廃棄物の排出・収集、中間処理、再資源化、最終処分に至る静脈経済の一連の物質フローの管理と捉えられる。しかし、静脈側の管理では、廃棄物の排出抑制、資源循環の推進、最終処分の回避、二酸化炭素の排出削減など各マネジメントの段階における取組みに留まっており、トータルシステムとしての物質フローを把握し、廃棄物マネジメントに活用するには至っていない。</p> <p>産業廃棄物は電子マニフェストが義務付けられ、産業廃棄物の排出量、最終処分までのフローが全国規模で把握されようとしているが十分に活用されていない。再資源化においては、再資源化原材料となる廃棄物の材質や性状は把握されておらず、再生製品事業者に再資源化原料の量や性状といった情報が共有されていないため資源循環を妨げている。また、廃棄物の焼却処理においては、焼却施設の制御をAI、IoT技術を駆使した複数施設の集中制御が可能となりつつある。しかし、焼却施設からの焼却残渣を処分する最終処分を配慮した制御とはなっておらず、最終処分に障害をもたらしている。つまり、廃棄物マネジメントの各段階の情報が共有されていないことから全体として最適な状態になっていない。</p> <p>一方、近年、AI、IoTなどのデジタル技術が急速に発展している。デジタル技術を活用することにより、各マネジメントの情報を統合し、廃棄物マネジメントを最適な状態にもたらしやすことができると考えられる。製品の製造、消費、廃棄物の排出から収集、中間処理、再資源化、最終処分に至る一連の物質フローにおける電子情報を一括管理し、最適な廃棄物マネジメントのためのごみインフラDXプラットフォームの構築が不可欠である。</p> <p>廃棄物の資源化、処理・処分の技術とシステム解析能力を有する工学研究院(環境社会部門)と情報の収集、通信技術を有するシステム情報科学研究所(情報エレクトロニクス部門)の専門性を結集し、短期間にごみインフラDXを構築することを目的として、連携講座を設置する。</p>	<p>寄附講座教員 工学研究院 (助教) 杉崎 康弘</p> <p>システム情報科学 研究所 (助教) Kumar Goodwill</p> <p>部局教員 工学研究院 (教授) 島岡 隆行</p> <p>システム情報科学 研究所 (教授) 金谷 晴一</p>	